

ひじり館利用者のニーズを探る

—利用者がひじり館に求める役割—

庄子 峻浩

1. 研究の動機・目的

多摩うどんぼんぼこプロジェクトでの活動を通じて、隣接されているひじり館(聖ヶ丘センター)での活動も行ってきた。当時のひじり館館長であった方との話で、子供達とお年寄り達との交流が少ないとの話が出た。そこで我々多摩うどんぼんぼこプロジェクトは、世代間で交流できるイベントは何かを考え我々は習字で交流を図る企画を実施した。

ひじり館では、子供達とお年寄り達では使用目的が異なる。その中で、ひじり館利用者のニーズを探り、利用者がひじり館へ求める役割を調査していく事へ至った。

2. 研究の背景

ひじり館での利用者のニーズを探るにあたり必要になるのはヒアリング調査だと考えられる。利用者の生の声を聞き、満足に思っている点、不便な点を聞き出すことが大切であると考えられる。コミュニティセンターのあり方を調べることをしていくことが大切であると考えているため、書籍の研究を欠かさずに行う予定である。

3. 研究における社会性

コミュニティセンターといった憩いの場で、満足を持たずに利用をしている状態では地域の活性化には結び付かないのではないかと考えている。研究を行ううえで把握すべきところは、地域の人々が様々な世代と交流するための拠点として、コミュニティセンターの役割は果たされているのか。果たすべき役割が、そこには存在しているのかを研究してはつきりとさせないといけないと思っている。

4. 研究方法

・先行研究

→まず、自分以外でコミュニティセンターにまつわる研究をしていた方がいるか、その方がどのような研究をしてきたかを調査する。

・文献研究

→地域やコミュニティに関連する書籍を研究することが大切であると考えている。

・ヒアリング調査

→ひじり館へ足を運び、利用者の生の声をお聞きする

5. ひじり館とは？

1995年（平成7年）10月に多摩市で6番目に誕生したコミュニティセンターである。

図書館と学童クラブが併設

コミュニティセンターの管理運営は、地域のボランティア団体の「聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会」が多摩市から委託を受け担当している

その後は、2006年（平成18年）4月より協議会は市の「指定管理者」となり、現在に至る

※指定管理者

地方公共団体で、施設の管理を行わせるために期間を定め指定する団体を示す。

※聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会

地域のボランティアの運営協議会委員で構成されており、その他に協力員の25名で構成されている団体のことを示す。

6. コミュニティセンターとは？

住民の地域共同体意識を高めるための施設である

例：公民館、図書館など

基本的には地域の拠点として成り立つ施設

※地域の方々が落ち着いて利用できる施設

7. アンケート調査の実施（予定）

ひじり館で利用者の声を聞くと同時に、アンケート調査を実施する予定である。この調査では、利用者が満足か不満かではなく利用者がどのような目的でひじり館を訪れているかをお聞きしたいと考えている。

8. 調査期間（予定）

2014年7月上旬～8月下旬

9. 今後の予定

2014年

・7月～8月 アンケート調査を実施

・9月 調査結果を集計

→数値をグラフ化

・10月～11月 調査結果に基づき、ひじり館へ提案

・12月 冬のSRCで報告

2015年

・1月 論文の清書 完成へ

〔参考・引用 URL〕

goo 辞書「コミュニティセンターとは」

<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/82076/m0u/>

多摩市公式ホームページ 多摩市 平成 26 年度 6 月 1 日 人口データ

<https://www.city.tama.lg.jp/zaisei/jinkou/250/019786.html>

多摩ニュータウン・エステート聖ヶ丘-3 団地ホームページ

http://hijiri3.org/?page_id=420

指定管理者 -Wikipedia

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8C%87%E5%AE%9A%E7%AE%A1%E7%90%86%E8%80%85>

〔参考・引用 文献〕

山崎亮『コミュニティデザインの時代』中公新書.2012 年

笈裕介『地域を変えるデザイン コミュニティが元気になる 30 のアイデア』英治出版社
2011 年